

# 令和5年度 東京都立志村学園 学校運営連絡協議会実施報告書 (就業技術科、肢体不自由教育部門)

## 1 東京都立志村学園 学校運営連絡協議会の構成について

### (1) 協議委員

創価大学准教授、元都立高等学校民間校長、NPO法人地域ケアサポート研究所、  
都立特別支援学校校長、板橋区肢体不自由児者父母の会会長、  
就業技術科卒業生保護者代表、肢体不自由教育部門PTA会長、就業技術科フォーSの会会長 計8人

### (2) 評価委員

協議委員より3名選任

### (3) 内部委員の構成

校長、副校長(3人)、経営企画室長、教務等を担当する主幹教諭 計8人

## 2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

### (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)開催日時、内容等

#### ○第1回 令和5年6月13日(火)

学校長挨拶、委員紹介、本年度の学校経営計画について  
本年度の学校運営連絡協議会の運営について、授業見学について(意見交換)

#### ○第2回 令和5年10月17日(火)

学校長挨拶、学校経営進捗状況について  
学校評価の進め方(評価項目・評価方法・日程等)について、授業見学について(意見交換)

#### ○第3回 令和6年2月21日(水)

学校長挨拶、学校経営計画進捗状況報告、学校評価結果報告(意見交換)  
学校評価に関する検討、提言について

### (2) 評価委員会

#### ○第1回 令和5年6月13日(火)

副校長挨拶、今年度の評価の進め方について(提案及び検討)

#### ○第2回 令和5年10月17日(火)

副校長挨拶、今年度の評価の進め方について、評価項目と基本方針の再確認  
今後の取組計画について、事務連絡

#### ○第3回 令和6年2月21日(水)

今年度の評価結果の分析について、校長への提言、職員会議での全教職員に対する提言内容の確認

## 3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

### (1) 学校評価の観点

1 学習指導 2 学習環境 3 心理的ケア(就業技術科) / 医療的ケア(肢体不自由教育部門)

### (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

#### 【 就業技術科 】

対象	対象人数	回収数	回収率
生徒	236人	224人	94.9%
保護者	235人	201人	85.5%
教職員	72人	72人	100%

#### 【 肢体不自由教育部門 】

対象	対象人数	回収数	回収率
児童・生徒	34人	31人	91.2%
保護者	96人	86人	89.6%
教職員	76人	76人	100%

※1) 準ずる教育課程、知的障害を併せ有する  
児童・生徒の教育課程の児童・生徒を対象

### (3) 評価実施方法

今年度は、アンケート回答前に質問内容をイメージしやすくするため、各項目の説明資料を閲覧できるようにした。回答方法については、Office365のFormsを用いたアンケート及び紙媒体、マチコミメールを活用した。また記名式とし、児童・生徒・保護者・教職員（行政系含む）に実施した。3つの観点ごとに自由記述欄を設け、選択項目だけでは図りにくい意見をいただけるようにした。

### (4) 分析方法

「回答4～1」の回答数を母数として各回答割合(%)を示す。ただし、令和4年度の各回答割合については、「回答0」を含むすべての回答を分母として割合を示していたため、令和5年度の集計方法に準じて比較できるようにした。しかし、令和4年度の学校評価アンケート保護者回収率が低かったことから、比較分析は慎重に行った。

### (5) 評価結果 (単位：%) (上段：R5 / 下段：R4) 肯定的回答率 90%未満 Q

#### 1 学習指導

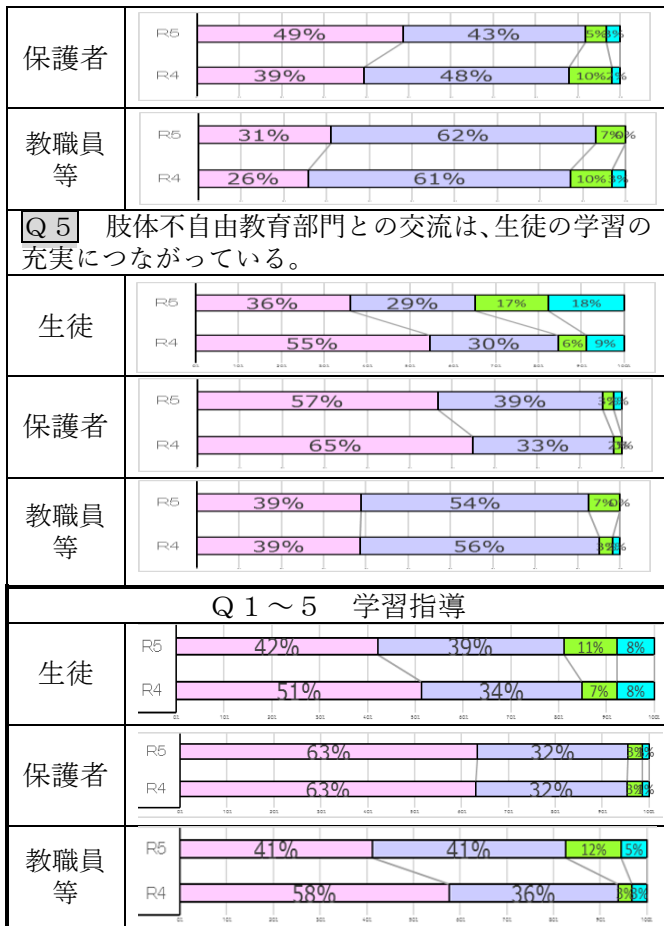
##### 【 就業技術科 】

<b>Q1</b> 学校は、人権（生徒指導、個人情報管理等）に配慮した教育を行っている。											
生徒	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>50%</td> <td>36%</td> <td>9%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>54%</td> <td>34%</td> <td>8%</td> <td>4%</td> </tr> </table>	R5	50%	36%	9%	5%	R4	54%	34%	8%	4%
R5	50%	36%	9%	5%							
R4	54%	34%	8%	4%							
保護者	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>72%</td> <td>26%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>76%</td> <td>22%</td> <td>1%</td> </tr> </table>	R5	72%	26%	2%	R4	76%	22%	1%		
R5	72%	26%	2%								
R4	76%	22%	1%								
教職員等	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>63%</td> <td>36%</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>64%</td> <td>34%</td> <td>1%</td> </tr> </table>	R5	63%	36%	1%	R4	64%	34%	1%		
R5	63%	36%	1%								
R4	64%	34%	1%								
<b>Q2</b> 個別指導計画に基づいて、生徒一人一人の課題に応じた目標を示し、評価している。											
生徒	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>37%</td> <td>50%</td> <td>9%</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>48%</td> <td>36%</td> <td>7%</td> <td>9%</td> </tr> </table>	R5	37%	50%	9%	4%	R4	48%	36%	7%	9%
R5	37%	50%	9%	4%							
R4	48%	36%	7%	9%							
保護者	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>67%</td> <td>30%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>68%</td> <td>29%</td> <td>3%</td> </tr> </table>	R5	67%	30%	3%	R4	68%	29%	3%		
R5	67%	30%	3%								
R4	68%	29%	3%								
教職員等	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>32%</td> <td>63%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>23%</td> <td>62%</td> <td>12%</td> </tr> </table>	R5	32%	63%	5%	R4	23%	62%	12%		
R5	32%	63%	5%								
R4	23%	62%	12%								
<b>Q3</b> 様々な専門性をもつ外部人材等から授業改善の助言を受け、質の高い授業づくりに活かしている。											
生徒	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>53%</td> <td>41%</td> <td>5%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>53%</td> <td>35%</td> <td>6%</td> <td>7%</td> </tr> </table>	R5	53%	41%	5%	2%	R4	53%	35%	6%	7%
R5	53%	41%	5%	2%							
R4	53%	35%	6%	7%							
保護者	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>73%</td> <td>24%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>63%</td> <td>32%</td> <td>3%</td> </tr> </table>	R5	73%	24%	3%	R4	63%	32%	3%		
R5	73%	24%	3%								
R4	63%	32%	3%								
教職員等	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>39%</td> <td>56%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>42%</td> <td>48%</td> <td>9%</td> </tr> </table>	R5	39%	56%	5%	R4	42%	48%	9%		
R5	39%	56%	5%								
R4	42%	48%	9%								
<b>Q4</b> Teamsを通じた様々な学習課題の配信、ICT機器を活用した教育を適切に行っている。											
生徒	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>34%</td> <td>37%</td> <td>19%</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>47%</td> <td>33%</td> <td>9%</td> <td>11%</td> </tr> </table>	R5	34%	37%	19%	10%	R4	47%	33%	9%	11%
R5	34%	37%	19%	10%							
R4	47%	33%	9%	11%							

##### 【 肢体不自由教育部門 】

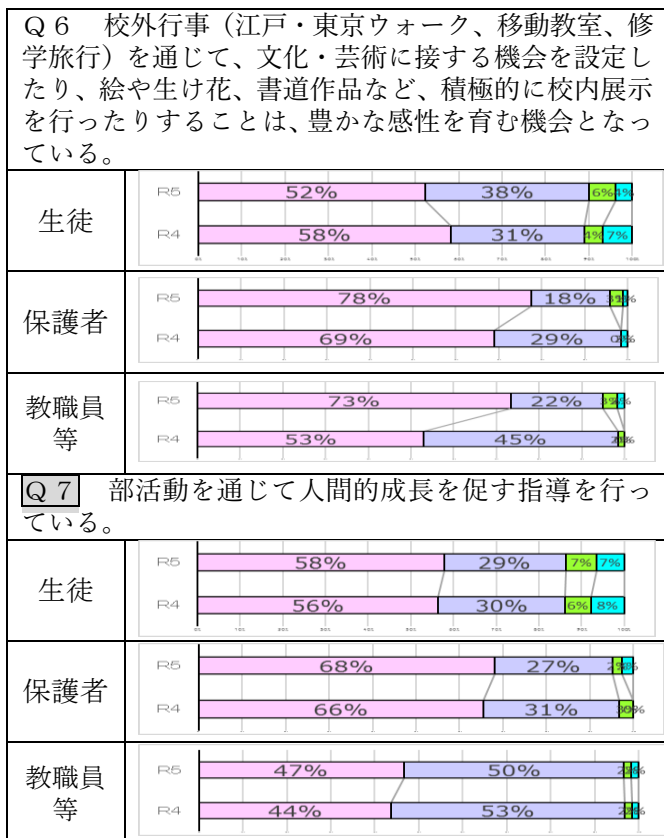
<b>Q1</b> 学校は、人権（生徒指導、個人情報管理等）に配慮した教育を行っている。									
児童・生徒	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>97%</td> <td>3%</td> </tr> </table>	R5	97%	3%					
R5	97%	3%							
保護者	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>89%</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>64%</td> <td>32%</td> </tr> </table>	R5	89%	10%	R4	64%	32%		
R5	89%	10%							
R4	64%	32%							
教職員等	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>61%</td> <td>38%</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>71%</td> <td>28%</td> <td>1%</td> </tr> </table>	R5	61%	38%	1%	R4	71%	28%	1%
R5	61%	38%	1%						
R4	71%	28%	1%						
<b>Q2</b> 個別指導計画に基づいて、児童・生徒一人一人の課題に応じた目標を示し、評価している。									
児童・生徒	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>96%</td> <td>4%</td> </tr> </table>	R5	96%	4%					
R5	96%	4%							
保護者	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>86%</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>75%</td> <td>21%</td> </tr> </table>	R5	86%	14%	R4	75%	21%		
R5	86%	14%							
R4	75%	21%							
教職員等	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>70%</td> <td>27%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>66%</td> <td>33%</td> <td>1%</td> </tr> </table>	R5	70%	27%	3%	R4	66%	33%	1%
R5	70%	27%	3%						
R4	66%	33%	1%						
<b>Q3</b> 外部専門家（理学療法士、作業療法士、視機能訓練士、言語聴覚士、音楽療法士、学習アドバイザー）から授業改善の助言を受け、質の高い授業づくりに活かしている。									
児童・生徒	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>93%</td> <td>7%</td> </tr> </table>	R5	93%	7%					
R5	93%	7%							
保護者	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>63%</td> <td>36%</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>67%</td> <td>29%</td> <td>4%</td> </tr> </table>	R5	63%	36%	1%	R4	67%	29%	4%
R5	63%	36%	1%						
R4	67%	29%	4%						
教職員等	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>49%</td> <td>47%</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>67%</td> <td>33%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	R5	49%	47%	4%	R4	67%	33%	0%
R5	49%	47%	4%						
R4	67%	33%	0%						
<b>Q4</b> 小学部・中学部はGIGA端末、高等部は一人1台端末を用いた授業づくりを進め、ICT機器を活用した教育を適切に行っている。									
児童・生徒	<table border="1"> <tr> <td>R5</td> <td>96%</td> <td>4%</td> </tr> </table>	R5	96%	4%					
R5	96%	4%							

【 就業技術科 】

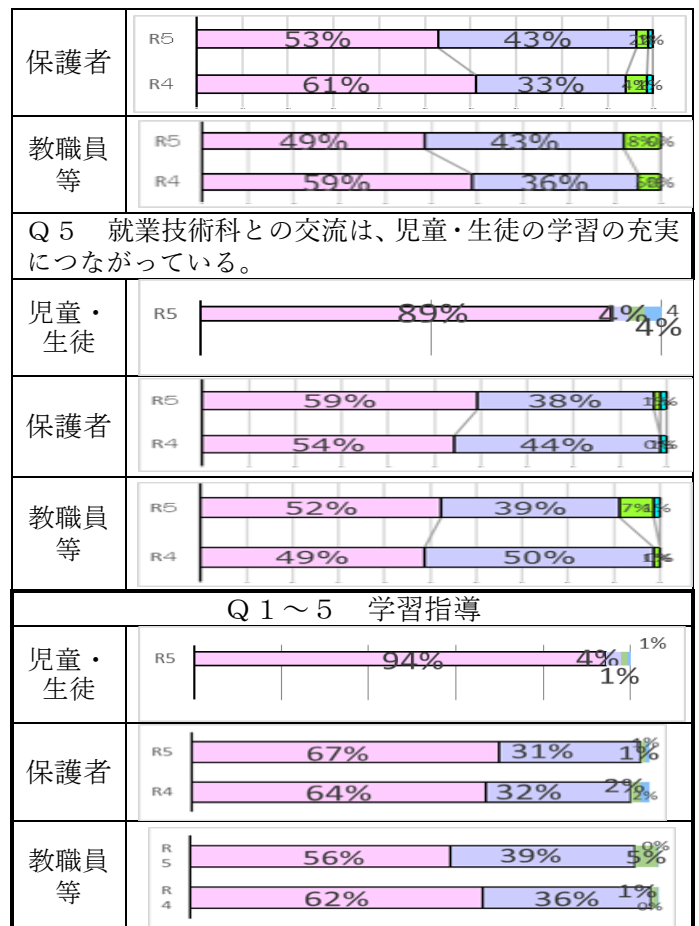


2 学習環境

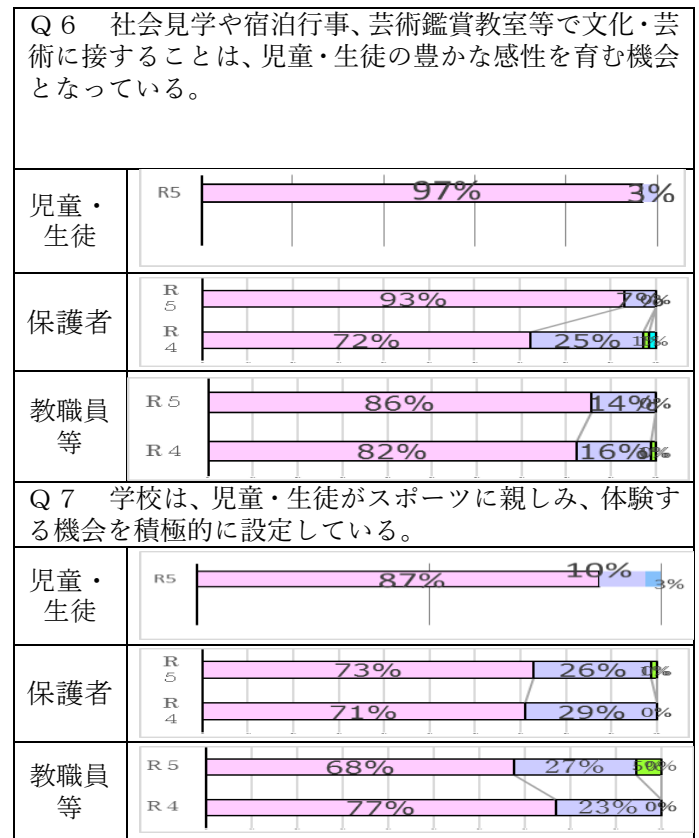
【 就業技術科 】



【 肢体不自由教育部門 】

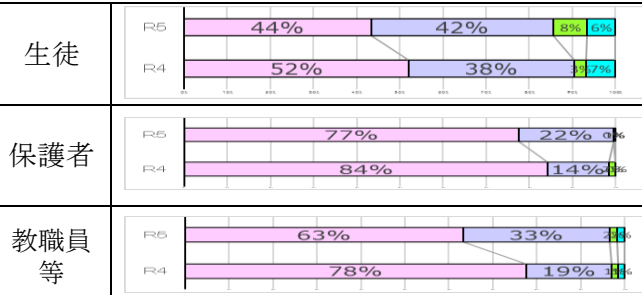


【 肢体不自由教育部門 】

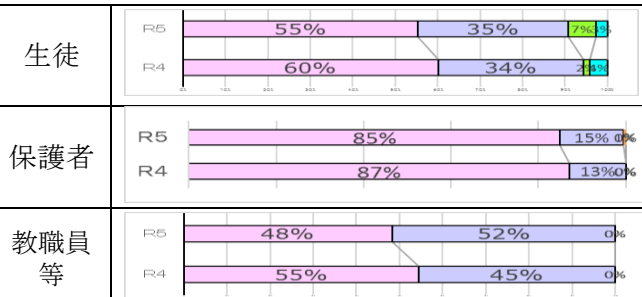


【 就業技術科 】

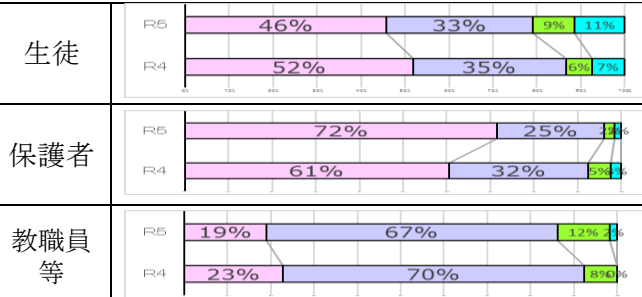
Q 8 学校は、基本的な感染症対策と情報発信を適切に行っている。



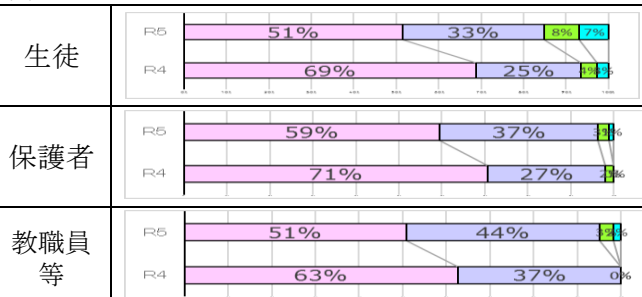
Q 9 学校は、4S (整理・整頓・清潔・清掃) を徹底し、生徒が学習しやすい環境を整えている。



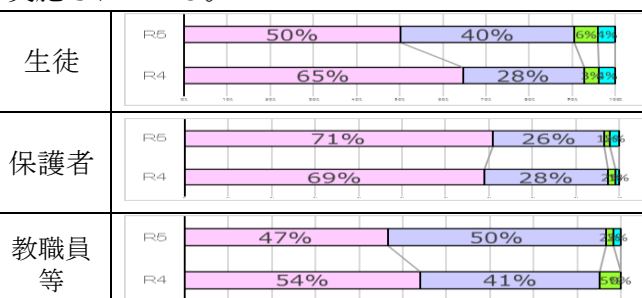
Q10 教職員の言動、ふるまい、服装などは、生徒のロールモデルになっている。



Q11 月1回の避難訓練を通し、大規模災害を想定した防災教育を行うことで、生徒の防災意識が高まっている。

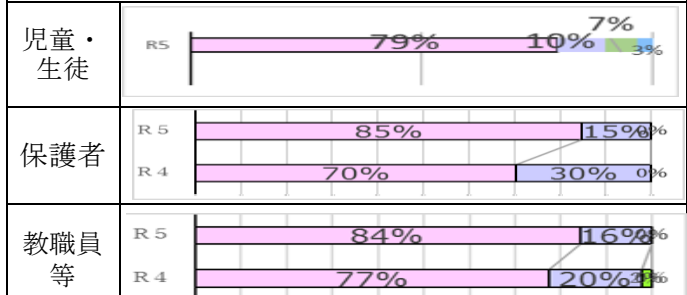


Q12 企業就労に向けた相談や進路指導は、保護者、企業、ハローワーク等との適切な連携のもと、実施されている。

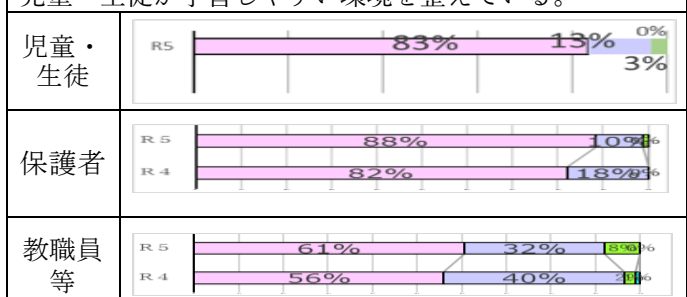


【 肢体不自由教育部門 】

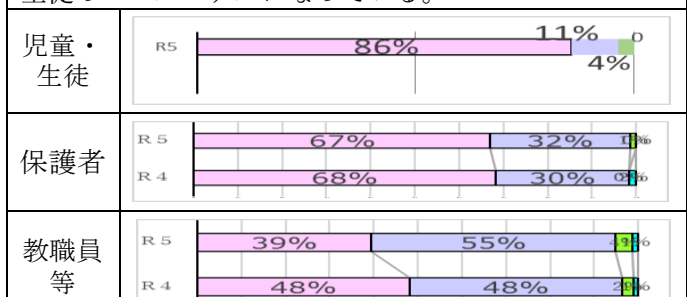
Q 8 学校は、基本的な感染症対策と情報発信を適切に行っている。



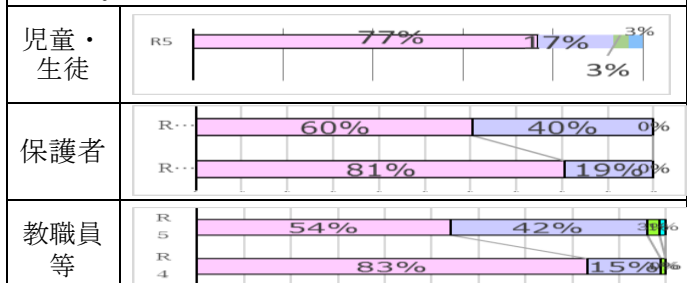
Q 9 学校は、4S (整理・整頓・清潔・清掃) を徹底し、児童・生徒が学習しやすい環境を整えている。



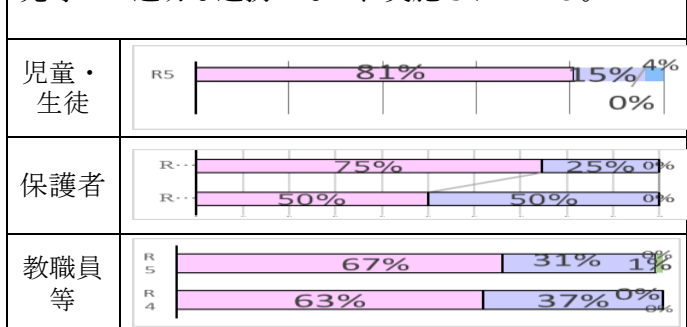
Q10 教職員の言動、ふるまい、服装などは、児童・生徒のロールモデルになっている。



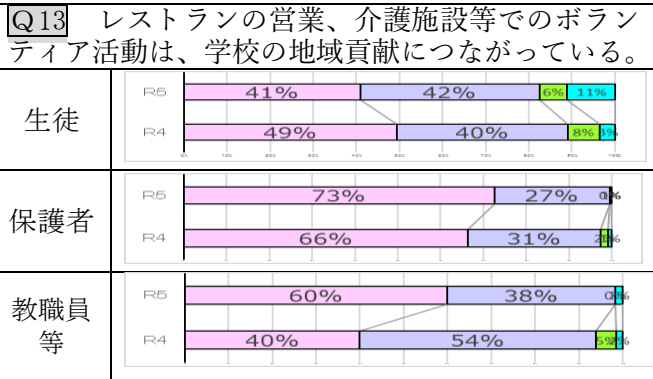
Q11 月1回の避難訓練など、大規模災害を想定した防災教育を行うことで、児童・生徒の防災意識が高まっている。



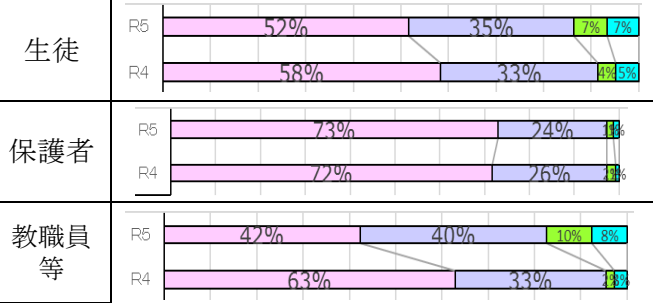
Q12 進路説明会や進路相談は、保護者や行政、進路先等との適切な連携のもと、実施されている。



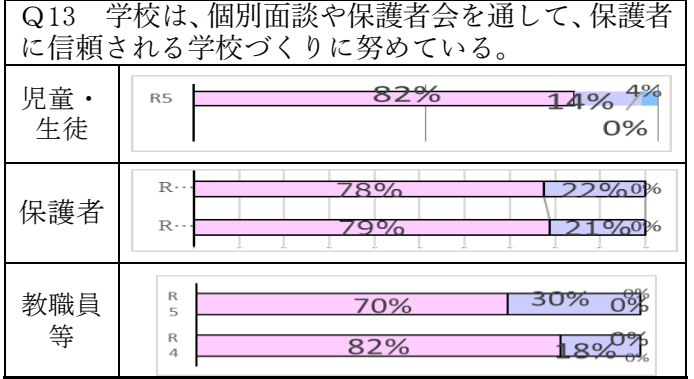
【 就業技術科 】



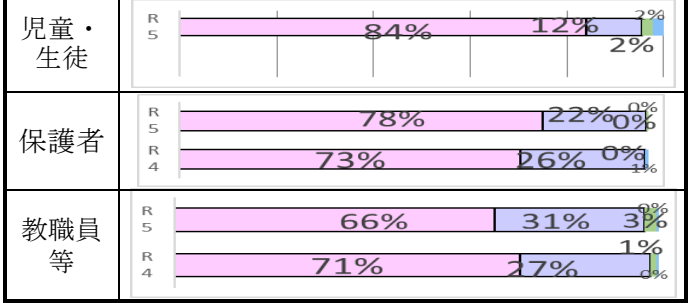
Q6~13 学習環境



【 肢体不自由教育部門 】

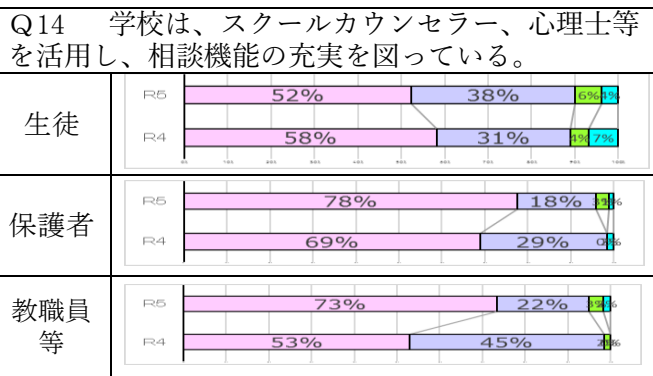


Q6~13 学習環境

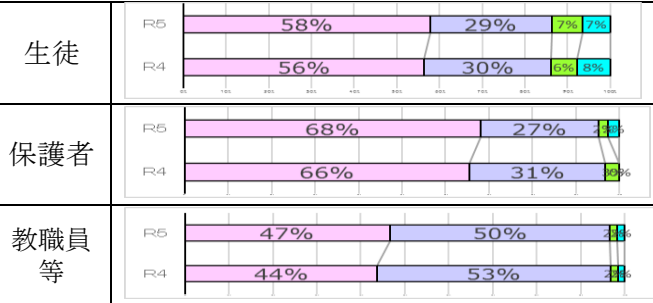


3 心理的ケア(就業技術科)/ 医療的ケア(肢体不自由教育部門)

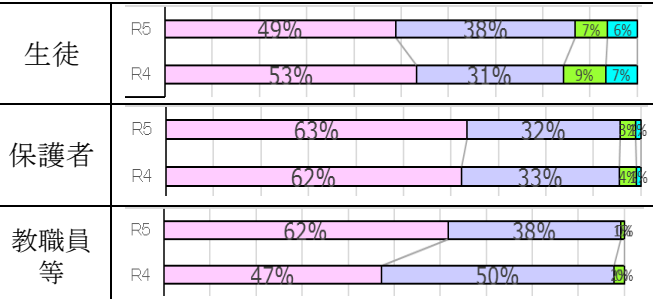
【 就業技術科 】



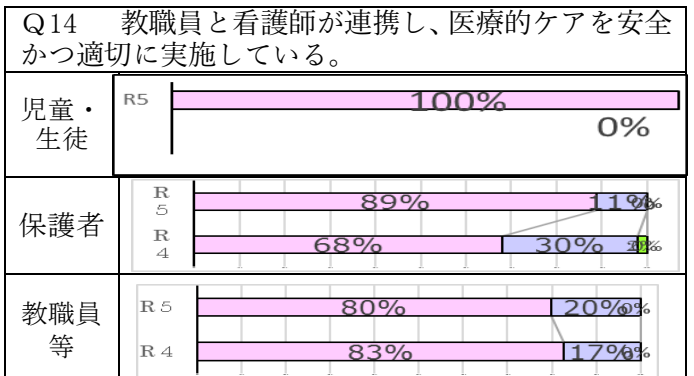
**Q15** 学校は、いじめ防止、自殺防止に向けた指導・支援とともに、生徒の悩みや心配事の相談、SOSの出し方などの指導を適切に行っている。



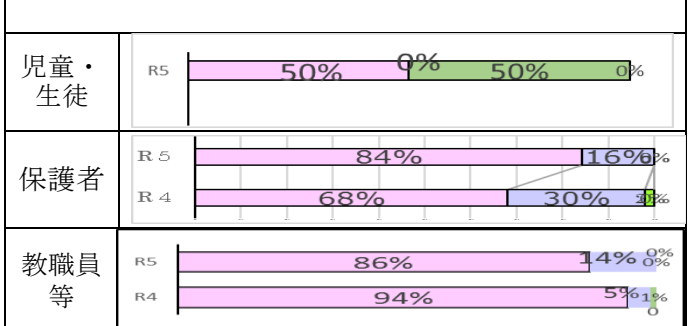
Q14~15 心理的ケア



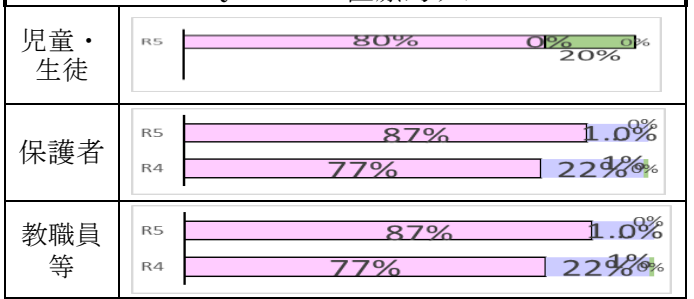
【 肢体不自由教育部門 】



**Q15** 学校は、医療的ケア専用通学車両を、安全に運行している。



Q14~15 医療的ケア



## 令和5年度 学校運営連絡協議会 提言

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、感染症対策をふまえた新たな教育活動の在り方を追究する必要性が高まりました。就業技術科では4年ぶりに航空機を使った修学旅行が、肢体不自由教育部門では、すべての学部において宿泊を伴う修学旅行が実施されました。全校保護者会や学年・グループ保護者会、授業参観など、保護者の来校機会も増えたことから、今年度の学校評価は、より実際の学習の様子に即したものとなっていると受け止めていかななくてはなりません。

今年度は、昨年度に比べ、両部門ともに保護者のアンケート回収率が飛躍的に向上し、回答者の学校経営への参画意識を向上させることができたと言えます。学校評価の実施方法を工夫し、より多くの意見を取り入れられるように改善したことは日頃、志村学園が学校運営や教育活動について、常に改善している成果であると感じております。

今回の学校評価の結果をふまえ、次年度に向けて以下のとおり提言します。

「学習指導」に関しては、いずれの項目においても、保護者、教職員ともに概ね肯定的な評価がなされているものの、「どちらかといえばそう思う」の回答割合が高いことから、教職員は少なからず課題意識を感じていると読み取れます。学校の財産ともいえる特別専門講師や外部専門家をより一層活用し、教職員の専門性のたゆまぬ向上を図りつつ、指導内容の系統化や組織的な授業力向上の取組を進めてください。

「学習環境」に関しては、4Sの徹底及びロールモデルとしての教職員に係る項目において、いずれも教職員自身の課題意識が読み取れる結果となっています。社会の変化をふまえつつ、開校以来の志村学園の伝統ともいえる「4S」と「ロールモデル」について、全員が今一度基本に立ち返り人権を意識した指導を展開してください。

「心理的ケア」（就業技術科）に関しては、生徒の肯定的評価が伸び悩んでいます。計画的な研修を通して生徒理解に係る専門性のより一層の向上を図り、一人一人の先生方の相談力が高まることに期待します。

「医療的ケア」（肢体不自由教育部門）に関しては、いずれの項目も高く評価されています。今後とも都のガイドラインに則り、保護者とのより一層緊密な連携、協力のもと、安心・安全な医療的ケアの推進をお願いします。

令和6年度、志村学園が一丸となって児童・生徒への教育の充実を進めていかれることを期待しております。